大学野球 関東地区選手権

神大、神宮へ王手

次につながる劇的勝利

明治神宮大会の予選を兼ねた大学野球の横浜市長杯争奪第14回関東地区選手権大会第2日は30日、横浜スタジアムで準々決勝を行い、神奈川大（神奈川1位）はタイブレークの末、5―4で白鴎大（関甲新2位）を破り8年ぶりの明治神宮大会出場に王手をかけた。

昨年準優勝の創価大（東京新2位）が国際武道大（千葉県1位）、筑波大（首都2位）は流通経大（東京新1位）を下した。

第3日は31日、同スタジアムで創価大―上武大（関甲新1位）、筑波大―神大の準決勝2試合を行う。

▽準々決勝

神奈川大（神奈川1位）	100	000	100	3	5
白鴎大（関甲新2位）	020	000	000	2	4

（タイブレーク十回）

【白鴎大―神奈川大】延長10回表神奈川大1死一、二塁。伊藤が左前に勝ち越しの適時打を放つ＝横浜スタジアム（花輪　久写す）

「思い切り振ったことだけは、体で覚えています」。興奮気味だったのは神奈川大の3番伊藤。痛烈な打球を飛ばし、チームは8年ぶりの明治神宮大会に王手をかけた。

2―2の無死一、二塁でスタートしたタイブレーク十回。先頭の主将夏井がバントを失敗した直後の1死一、二塁で、その嫌なムードを払拭した。殊勲の勝ち越し左前打。今秋打率2割4分1厘と苦しんだが、岸川雄二監督(45)が「つなぎ役に」と起用し続けてきた期待に、ついに応えた。その勢いは、リーグ首位打者・1年梶原のハートも奮い立たせ、左翼フェンス直撃の2点適時打で続いた。

七回に追い付いてからの劇的勝利に、指揮官は「打つチームがシビアな試合を経験したことは次につながる」と目を細めた。

この日は政井、冨岡ら中軸が不発。九回までに三塁に走者を置いた好機を4度も逃すなど、リーグ戦12試合で73得点の強打は鳴りを潜めたが、主将夏井は「苦しい時間を耐えた先に、チャンスがあった」と収穫の大きさを強調する。

無得点で初戦敗退した6月の全日本大学選手権の雪辱を果たすための聖地神宮まであと1勝。神奈川勢が4年遠ざかる大舞台が見えてきたが、主将は言う。「まだまだ先を見る暇なんてない」。歓喜の瞬間まで、神大ナインはただ貪欲に一球に食らい付いていく。（矢部　真太）

延長10回1死一、二塁、伊藤の適時打で二走江越が勝ち越しの生還を果たす（花輪　久写す）

【評】神奈川大がタイブレークの末に粘り勝ち。1―2の七回に追い付くと、延長十回1死一、二塁から3番伊藤の勝ち越し左前打などで3得点。七回から救援したエース中野が、十回裏の反撃を2点でしのいだ。先発重田も変化球主体に6回2失点と踏ん張った。

山田啓、敗退に大粒涙

⚾…「悔しい気持ちしかない」。六回途中から救援した白鴎大の2年生左腕・山田啓（東海大相模高出身）は準々決勝敗退に大粒の涙を流した。

同点で迎えた延長十回1死一、二塁。「タイブレークのマウンドは初めてで冷静になれなかった」と緊張もあり、甘く入った5球目のストレートははじかれて勝ち越しを許した。

今季は春秋7勝を挙げる成長を示した背番号15は「このままじゃいけない。啓太なら大丈夫ってみんなから思ってもらえるようにならないといけない」とこの敗戦を糧にしていく。

【神　大】	打	安	点	振	球
⑥ 江越	4	1	1	0	1
④ 夏井	3	0	0	1	0
③ 伊藤	3	1	1	0	0
DH 政井	2	0	0	0	2
RD 渡邊宗	0	0	0	0	0
⑧ 梶原	4	0	0	0	0
⑨ 冨岡	3	0	0	1	0
⑤ 東本	4	0	0	0	0
⑦ 小材	1	1	0	0	2
R7 中島	0	0	0	0	1
② 奥村	1	0	0	0	1

犠	盗	失	併	残					
4	1	1	0	8	25	3	2	2	8

【白鴎大】	打	安	点	振	球
⑧ 金子	4	1	0	2	0
DH 龍	4	2	0	0	0
⑦ 大下	4	0	0	0	0
⑤ ラミレス	4	0	0	1	0
② 渡邊亮	3	0	0	1	1
④ 山田和	3	1	0	0	1
③ 中山	1	0	0	1	1
H 津川	1	0	0	0	0
3 大橋	0	0	0	0	0
H 松元	1	0	0	1	0
⑥ 保立	4	1	0	0	0
⑨ 京橋	3	1	2	1	0

犠	盗	失	併	残					
1	1	2	2	7	32	6	2	7	3

▽二塁打　京橋、龍▽犠打　夏井、伊藤、奥村2、京橋▽盗塁　梶原、金子▽失策　東本、ラミレス、山田和▽暴投　中村、山田啓▽ボーク　山田啓
▽審判　緒方、浅野、栗原、山本、佐々木、川上
▽試合時間　2時間51分

投手	回	打	安	振	球	責
重田	6	25	4	5	3	0
中野	3	11	2	2	0	0
中村	1⅔	9	1	0	4	1
大関	4	15	1	0	1	0
山田啓	3⅓	13	1	2	3	1

筑波大（首都2位）	101	050	020		9
流通経大（東京新1位）	000	000	000		0

（筑）村木、川崎、加藤―鳥、島脇（流）片山、木村、杉浦―高野
▽二塁打　篠原、国吉（筑）

創価大（東京新2位）	001	101	001		4
国際武道大（千葉県1位）	000	020	000		2

（創）小孫、杉山―萩原（国）平川、林、青野―鮎ケ瀬
▽本塁打　萩原、山形、下小牧（創）赤城（国）

星、粘り強く守備貢献

⚾…筑波大が完封勝ちで12年ぶりの神宮大会出場に王手。華麗に跳んでライナーを捕球するなど、軽やかな遊撃の守備で貢献した桐蔭学園高出身の４年星は「粘り強く守れた」と納得顔だ。

背番号６だった高校３年夏はエース斉藤（西武）とともに神奈川大会４強で、１浪して筑波大へ進んだ。ハマスタでのプレーは５年ぶりで「楽しかったけれど神宮出場を決めるまで気が抜けない」と頼もしい。

卒業後は関西の社会人チームでプレーを続けるという星は、恩師・土屋監督に教わった「やる気、明るさ、我慢強さ」を胸に、神宮への歩みを進めるつもりだ。

軽快な守りで初戦突破に貢献した筑波大・星

国際武道大　神奈川出身の３～６番

重圧苦しみ1安打

全日本大学選手権で2年連続準優勝している国際武道大が初戦敗退。神奈川出身の3年生スラッガーが3～6番に並んだが、4人合わせて15打席1安打に終わった。「こんなに打てなかったことはない」と東海大相模高時代に2015年夏の甲子園を制覇している4番豊田。横浜高出身の6番三河が「プレッシャーに苦しんだ」と言えば、岩井美樹監督(63)も「振りが置きにいってしまったね」と渋い表情で振り返った。

小田原足柄シニア出身の3番勝俣、豊田が火を付けて、東海大相模高出身の磯網、三河のバットで得点を重ねるパターンに持ち込めず。磯網は腰の故障もあり今秋のリーグ戦でほぼ離脱しており、この日は痛み止めを飲んで強行出場したが「全然タイミングを読めなかった」と嘆いた。

準決勝に備えていたという横浜高出身のエース伊藤は出番なし。「最後の試合ぐらいハマスタのマウンドに立ちたかった」と唇をかむ。左腕は25日のドラフト会議で指名漏れし、社会人からプロ入りを目指すという。

日本一への道の険しさを昨年に続き痛感したスラッガーたち。磯網は最終学年となる来季へ「もう言い訳しない。自分が引っ張っていく」と先頭に立つことを決意した。（矢部　真太）

３打数ノーヒットと苦しんだ国際武道大の５番・磯網